

# めぐみ

2024年  
3月号

学校法人 聖公会北関東学園  
認定こども園  
初雁幼稚園  
〒350-0057 川越市大手町 8-5  
Tel.222-5385 Fax 228-5010  
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

## 自分で決める経験

補助職員 大森 恵

長女は小さいころからいつもニコニコ穏やかで、従順なタイプ。いろいろと抜けているので叱られることもありましたが、反抗的な言動は殆どなく育ってきました。しかし中学に入ると少しずつ様子が変わってきます。私への反抗的な言動はもちろん、朝起きた瞬間からなぜか機嫌が悪い。楽しく話していたのに急に不機嫌になる。そうかと思えば、急にベタベタとくっついてくる。

そんな思春期真っ只中に始まる高校受験シーズン。長女の希望で中2の夏から塾に通い始めていましたが冬休みを過ぎたころから休みがちになり、最終的には塾を辞めたいと言い出しました。本人の話を聴くも、勉強から逃げているような発言ばかりで納得できる内容ではありませんでした。話し合いを繰り返すも状況は変わらず。そんな中で長女が発した一言。「どうせ、お母さんは塾を辞めさせてくれない。」この言葉を聞いたときハッとしました。いつまでも親に従順な長女ではないことはもちろん、その従順さを良しとして親の価値観で何でも決めてしまっていたことへの反省。これを続ければ長女は自分自身で考えて選択することをあきらめるようになるかもしれない。親からすれば勉強から逃げたい思いにしか聞こえないけれど、それでも長女自身がそれを選択してどうなるかを経験することに意味があるということ。

すぐに塾を辞め、長女のやりたいようにさせてみることにしました。すると、途中タブレット学習を試したものの思うように結果が出なかったようで、もう一度塾に通いたいと言ってきました。時期的にも塾選びの最後のチャンスになることを伝え、長女自身がリサーチした塾の中から通う所を決めました。

このころから高校見学も始まり、親子でいくつかの学校を見て回りました。思春期とは言え根が従順なので私の一言が志望校選びに影響しないよう見学後に感想を伝えることはグッと堪え、長女の感じた思いに耳を傾けることにしました。最終的に本人のやりたい部活が盛んな高校に決めることができました。

思春期と重なる高校受験は本当に大変でしたが、私たち親子にとっては必要な経験だったと思います。同じ結果になったとしても、本人が考えて選択して決めることに意味があるということを感じた出来事でした。

思い返せば、長女は洋服や持ち物、髪型などにこだわりがなく、小学生になっても私が誘導して決めていたように思います。小さいころに子どもだけで決められることは少ないけれど、少しずつ経験させておくべきだったと反省しました。

いつも勝手に前髪ぱつんにしてごめんよ☆

# 今月の保育目標と予定

## ☆保育目標☆

今月のテーマ  
「かみさまありがとう」

### 今月のねがい

- 安心と希望を持って歩みを進める
- 新しい生活へ期待を持ちながら、好きな遊びを存分に楽しむ
- 神様の見守りの中で、大きくなったことを感謝する

### 学年別のねがい

- (1歳) 自分でできることが嬉しい
- (2歳・満3歳) 興味が広がる
- (年少組) 大きくなることに憧れ、期待を膨らませる
- (年中組) 進級への期待が高まり、自信を持つ
- (年長組) 就学を期待し、希望を持って歩む

### ひとこと

いよいよ今年度最後の1ヶ月となりました。ピカピカだったバッチは、いい味の出ている少し汚れたバッチに。この1年間、幼稚園でたくさん遊んだ証拠がいろいろな物に現れていることでしょう。子どもたちの笑顔と成長しているその姿に、帰ってきた今までの「日常」のありがたさをあらためて感じた1年でした。少しずつ、次のクラスや進学へと期待を膨らませている姿があります。この先どんなときも、神様の見守りの中で、光の子として歩めますように。

今月の聖歌 「つくしのように」

今月の歌 「幸せなら  
手をたたこう」

## ★予定★

日	曜	行事などの予定
1	金	全体礼拝 ちらし寿司会食 職員研修⑨
2	土	就労家庭保育実施日 保護者・教職員交流会
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	おわかれ会 地震引き渡し訓練(14時実施) 職員会議⑩ アルミ缶回収
8	金	全体礼拝・卒園式予行 ↓
9	土	就労家庭保育実施日
10	日	
11	月	サークル長会議
12	火	
13	水	3月生まれ誕生会 川越小演劇クラブ発表会
14	木	おはなしの会
15	金	
16	土	就労家庭保育実施日
17	日	
18	月	期末短縮(半日保育)
19	火	期末短縮(半日保育)
20	水	春分の日 第123回卒園式・修了式
21	木	1号認定春休み
22	金	
23	土	就労家庭保育実施日 園庭整備・お父さんたちとの交流会
24	日	学園理事会
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	就労家庭保育実施日
31	日	イースター 日曜学校入校式
4月		
6	土	第124回入園式(9時50分受付)
8	月	始業式(11時30分降園)

# チャプレンのページ



## 神による祝福

主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように

ヨハネの黙示録 第22章21節

「宗教」という言葉は私たちにとってなじみ深い言葉ですが、そもそもこの言葉の元となった英語は「religion」で、この翻訳語が「宗教」です。

Religion を最初に訳す必要に迫られたのが、1858年の日米修好通商条約でした。ここでは「宗法」と訳されています。該当部分をみると、アメリカ人の宗教と日本の宗教はそれぞれ干渉せず、尊重しなければならないとの内容でした。尊王攘夷派による外国人弾圧が続いたころでしたので、このようなことを定めることになったのでしょう。

また宗法のほかに、宗旨、宗門などと訳されることもありましたが、明治中期以降、知識人たちが教えと理解したため、宗教という言葉が一般的となりました。その人がもっともその人らしく生きる、人間本来の姿を回復するため、尊敬すべき存在と自分自身を結びつけ、共同体として日々の営みを継続することで宗教は成り立ってきたのです。

昨今宗教の名のもとに、人の心を踏みにじったり洗脳したりする存在が現れ、人々を不安に陥れています。これは宗教とは全く言えない存在です。

さて冒頭の聖句は、新約聖書の最後の書物、ヨハネによる黙示録の最後の言葉になります。新約聖書の最後の最後に何が書かれているかと言えば、主イエス様の恵みがすべての者と共にあるようにという祝福の言葉なのです。

ヨハネによる黙示録が書かれた時代は迫害が最も激しいころであったと言われています。キリスト教的なことを単刀直入に書いたら翌日命を奪われてしまいますので、比喩やたとえを用いて書かれていて、一見わかりにくい文章なのですが、どのような困難があったとしても、神様を信じる心をしっかり貫いていこうという、励ましの内容になっています。

それでも多くの人々が失望したり、キリスト教から離れる人もいました。状況からすれば無理からぬこととはいえ、すべての人がキリスト教から離れてしまったわけではありませんでした。命をかけて信仰を貫いた人たちによってキリスト教は迫害の時代にもかかわらず受け継がれていき、今日までつながっているのです。

人生は順境のときより逆境のときのほうが多いかもしれません。正しく生きようとすればするほど、苦しみ、悩み、報われない思いに悩まされるのではないのでしょうか。しかし、最後まで耐え忍ぶものは救われる、そして恵みと喜びに満たされる・・・、これが新約聖書最後に入れられている神様の約束です。

幼稚園で子どもたちは多くのことを学びました。聖書についても多くの場面で子どもたちは触れてきました。それを言葉や理屈ではなく、自分自身の人生のどこかで生かしてもらいたいと願っています。

(鈴木 伸明)

# クラスの窓



## つくし組

### ありがとう！お散歩バギー



公園や夕方の散歩、この一年雨の日以外、毎日一緒に歩んできたバギー。散歩帰りにウトウト気持ちよく居眠りしたり、自分の番はまだかなと待ちながらバギーから降りてあんよの練習をしたり。歩くのが楽しくて突如やってきた「バギー乗らない」ブーム。バギーに乗ってる方が楽ちん！と気がついたのかどうかは分かりませんが、「バギー降りない」ブームもありました（笑）。行き帰り順番に歩き、散歩先で体をたくさん動かして遊んでこの一年で体力がついてきました。たくさんの思い出が詰まったバギーは4月に入る次のつくし組さんに受け継がれます。年明けから少しずつバギーなしでの散歩にチャレンジしています。まずは園周辺、次はお堀まで...と少しずつ距離

を伸ばしているところです。順調に歩き出しても急にしゃがみ込んでしまったり、気持ちが変わり「つながない」と背中に手を隠してしまうこともまだまだあります。バギーなしでの6人の散歩。無理なくゆっくりと子どもたちのペースを大事に楽しんでいきたいと思ひます。

## もも組

### 友だちの力



もも組になりたてのころは、それぞれの世界の中にあることが多かった6人でしたが、少し変わってきました。今まで絶対に汚れたくなかった子が洋服に泥がついてもへっちゃらになり、最終的には裸足になって滑って転んで友だちと笑い合っていたのです。自分の殻を破るのは大人になると難しく考えてしまひますが、友だちを見て「あ、楽しそう」「あの子がやってるならやってみよう」が少しずつ積み重なっておよそ1年かけてこんなに楽しそうな姿が見られました。また、散歩では保育者が何か話題を投げかけて話しながら歩くことが多かったのですが、今では保育者

と手を繋ぐずに2人で歩くことも増え、友だちとのおしゃべりに花を咲かせています♪もちろんぶつかることは日常茶飯事です、「けんかしないで」と大人のように声を掛けたり「じゃあこうしたらいいんじゃない」と提案してくれたり、子ども同士でのやり取りが増え、毎日感動しています。友だちの力って素敵だな！来年度はもっと友だちが増えてより世界が広がっていくといいなと思ひます。

## ちゅうりっぷ組

リレーに挑戦中

さまざまな運動遊びを経験してきた子どもたちは、「体を動かすって気持ちがいい」「運動って楽しい」と感じるようになってきました。クラスの集まりでは体操を行い、体を心地よく動かしています。運動機能も発達し、鬼ごっこでは大人も全力で走らないと捕まるほど走るのがじょうずになりました。また、少しずつルールのある遊びもできるようになりました。すみれ組とたんぽぽ組が運動会で行ったリレーに憧れを抱き、最近ちゅうりっぷ組もリレーを楽しむ姿が見られます。最初は白線の外側を走ることや同じチームの子を見つけてバトンを渡すことも難しかったですが、すみれ組の子どもたちが「線の外だよ！」と教えてくれたり、大人も入りながらバトンをつないだりと遊びのなかで自然とルールが身につけて行きました。ちゅうりっぷ組では転んでも最後まで走りきった友だちを「かっこよかった人」として発表しています。発表が終わるとみんなで「大丈夫？」と言いながら洋服についた砂を払ってあげたり、涙を拭いてあげる子もいます。遊んでいる時は勝つ喜びや負ける悔しさに気持ちが向きがちですが、最後まで諦めず一生懸命走るといった気持ちを育み、またチームの子にも相手を思いやる優しい心をこれからも大切にして欲しいなと思います。

## たんぽぽ組

課題に向き合い、乗り越えたことが自信に



すみれ組から、年末に生まれた小鳥の名前を「たんぽぽ組がつけてください」と依頼されました。楽しみにして張り切る子どもたち。決めようと話を始めてからたんぽぽ組は体調を崩しての欠席が増えました。「みんなが揃ってから決めようよ」の声で延期が続き、全員揃ったところで話し合いが始まりました。話し合いの約束は「手を挙げて、指された人が言う」「友だちが話しているときは聞く」ということ。名前の候補は最後3つに絞られました。どうやって決めていくのかも含め、いろいろな意見が出ました。意見を譲る子がいたり、譲ってくれた子に「ありがとう」を伝える姿があったりして、ようやく「ぴーちゃん」に名前が決まりました。名前が決まった報告を他のクラスへ行くときのみんなの誇らしげな顔がとても素敵でした。全員自分の意見を発言できたこと、他の友だちの思いや、小さい保育部のみんなも呼びやすいようにと周りの人を思いやる気持ちで決められたことが、何より素晴らしく、成長を感じました。それには1年間でそれぞれが自分の課題に向き合い、友だちとの交わりの中で乗り越えていった自信が大きいのかと思います。その自信を力にして、これからもみんなと一緒に歩いてい

って欲しいと思います。



2月から当番の引き継ぎが始まりました。エプロンの付け方、うさぎ小屋の掃除のやり方などをたんぼぼ組に伝えていきます。楽しさと緊張が入り混じる表情のたんぼぼ組に、「できる？」と優しく気遣ったり、少し難しいところは「やってあげるよ」と、手伝おうとする姿がありました。自由遊びではドッジボールがはやっています。今までは「負けるからやらない」と勝負のつくゲームには参加したがない子がたくさんいました。ですが今では、負けても「次は勝つ」と諦めずリベンジします。負けて悔しくて泣いている子がいたときには「頑張ってたよ」「次はきっと勝てるよ」と一生懸命に励ましてくれる子たちの姿。周りの子のおかげで、再び挑戦することができました。縄跳びも最近のブームで、大汗をかきながらコツコツと練習しています。最初は全く跳べなかった子も、毎日続けることで50回以上跳べるようになりました。

社会見学で行った明治チョコレート工場のフィードバックでは、チームに分かれ、見てきたことをどうやってみんなに伝えるか、自分たちで考えました。それぞれの思いを表現しながら、互いのアイデアを受け入れ、制作するところまでほとんど子どもたちの力でやり切ったことに本当に驚きました。子どもたちの成長をうんと感じる3学期。最初は難しいこともあるけれど、毎日の積み重ねがこんなにも人を強く、優しく、たくましく成長させるものなのかと、この時期にいつも感じます。一人一人の成長が心から嬉しいです。

# わが家のまど



## (305) 雲海チャレンジ

つくし組担当教諭 久保田沙樹



昨年いとこの希望で雲海を見に行ったことがきっかけで、ちょっぴりハマリそうな予感（いつまで続くかはわかりませんが）秩父のミューズパークの展望台？で見られるということで何度か「雲海チャレンジ」をした昨年。初回なんかうっすら。2回目強風のため雲ゼロ。3回目うっすら雲…さすがに毎回早朝から友人（2, 3回目）に付き合ってもらうのも申し訳なくなり、4度目は単独で。4回にして雲海予想をしている方のXを発見し、「今日は見られるかも！」と3:30に家を出て駐車場に到着しました。「日の出前の真っ暗な木々の間を一人で歩くのはさすがにな」と思っていると、他の雲海仲間（勝手にそう呼んでいる）がくま鈴をりんりん鳴らしながら歩いて展望台へ向かっていたので、どさくさ紛れに後ろからついて行かせてもらいました。結構、学生さんや親子連れの方も日によっては来ていました。展望台へ行くと、一面雲海とはいかなかったものもくもくした雲が！感動のあまり2時間は見ていました。日の出もとても綺

麗 ✨ 写真を妹へ送ると「こっち(妹の住んでいる県)でも雲海有名なところあるよ」、これはもしかすると甥っ子といつか雲海を見に行けるのでは、とワクワクしています。弟にも話したら父に「姉ちゃんが雲海にハマってる」と伝えたらしく、父「自分も学生のころに見に行ってた」と思いがけない共通点を発見することになりました。一面の雲海を見ることを目標に、雲海予報や秩父観光ナビの雲海カメラを日々チェックしております。

### (307) 三女とバスボールのおかげで

長女、次女も大きくなり2人だけで長風呂(1時間以上)に入るようになってたり、会話も以前より減りつつある去年の冬。ミニオンブームだった三女が薬局でミニオンのバスボールをけ見つけ欲しがり購入しました。入浴剤は入れていたのですが、キャラクターのバスボールは初めて!丸くて色付き、匂いもあり、そしてシュワシュワした中からキャラクターが出てくる楽しさと中に物が入っている不思議に魅了されしまい…また薬局へ行くと違うバスボールを。上2人からは「また、買うの?」とぼそっと。でも三女は知らんぷり。

キャラクターが出るたびに姉たちに二語文で一生懸命教えてくれて、私→次女→長女とハマりだしました。今は絵本のキャラクターからお菓子のキャラクター、食べ物など。なんと百均でもいろいろな種類の物があり手軽に買えます!上2人はお手伝いしたお金や月のお小遣いで買えたり。冬休み期間はいただき物があったり、1つずつみんなで買ったりして楽しみました。

このおかげもあり、子どもたちだけで入る日や次女、三女、私で入る日も半年ぶりくらいに復活!!共通の好きな物ができ、これを目的で一緒に出掛けることが以前より増え、会話もこの話から他の話へと広がりやすくなりました。「これも三女とバスボールのおかげなのかな」と思い、この2月の連休中もお風呂に入れて楽しみました!

保育部教諭 田口留美子



## 今月の聖書のおはなし



☆ 3月1日「ヨナ物語」

ヨナ書1:1~4:11

ヨナは神様からの言葉を聞いて、人々に伝える人でした。ヨナは「悪いことばかりしているニネベの人々に悔い改めるように告げなさい」という神様の言葉を聞きました。しかしヨナは、人々が怒るのを恐れ、神様の言葉を聞かずにニネベとは反対にあるタルシシュのいう街に向かって船に乗りました。すると海は大荒れとなり、今にも船が沈みそうになりました。誰のせいで神様が怒っているか確かめようと、船に乗っている人々でくじを引くことになりました。するとヨナが当たり、海に投げ込まれ、大きな魚に飲み込まれてしまいました。魚のお腹の中でヨナは後悔し、お祈りをしました。すると、神様は魚の口からヨナを吐き出させました。ヨナは神様の言葉通りに、ニネベの町へ向かいました。しかし、神様がニネベの街を滅ぼすことをお止めになったことを知ると怒り、ニネベの街がどうなっていくのかを眺めることにしました。

☆ 3月8日「悪魔から誘惑を受ける」

マタイによる福音書4:1~11

イエス様は悪魔から誘惑を受けるため、荒れ野に行かれました。そして 40 日間断食をしました。お腹が減ったイエス様のところに、悪魔がきて「神の子なら、石をパンに変えたらどうか」と誘惑しました。しかしイエス様は「人はパンだけで生きるのではない。神様の言葉で生きるのです」と答えました。悪魔は、次にイエス様を神殿の屋根の端に立たせて「神の子ならここから飛び降りてみる。神様が天使に命じて助けてくれるだろう」と言いました。イエス様は「神を試してはならない」と答えました。悪魔は高い山に連れていき「もしひれ伏して私を拝むなら、ここから見える全ての国を与えよう」と言いましたが、イエス様は「神様だけを拝み神様にだけ仕えるのです。悪魔よ、ここから立ち去りなさい」と言って、悪魔を退けました。